

## 府中市立学校給食センターと福生市防災食育センターを見学して

伊藤久雄（認定NPO法人まちぼっと理事）

府中市立学校給食センターと福生市防災食育センターとがともに新しく9月1日にオープンした。さる10月5日には、これまで府中市の学校給食について取り組んできた市民グループの主催で見学会があり、私も参加した。また10月31日は東京自治研究センターのまちづくりウオッチングで福生市防災食育センターを見学する機会があった。

その2つの給食センターの概要や特徴、課題などを報告する。

### 1. 府中市立学校給食センター

#### ◆ 施設の概要等

##### □ 新給食センター設立の経緯

- ▷ 2017年7月までは、小学校3校は自校方式、その他の小学校19校と中学校11校は、2か所の給食センターで調理していた。
- ▷ 2か所の給食センターとも老朽化したので、新給食センターを建設することとした。
- ▷ この新給食センターの開設にともなって、自校方式は廃止し、小学校の調理は全面民間委託、中学校は市の職員による調理（直営方式）に移行した。
- ▷ 自校方式の3校にいた栄養士3人は、新センターに吸収した。新センターの栄養士は19人である。
- ▷ 学校側には配膳係がいる（委託）。委託先は委託した運送業者。
- ▷ でき上がった給食の運搬は、小学校、中学校に分けてそれぞれ別の運送業者に委託している。午前中2回（食器類の運搬と給食の運搬）、午後2回（給食を運んだ用具の回収と食器類の回収）、稼働している。
- ▷ 改修した用具、食器等は3階の洗浄室で洗浄する。

##### □ 施設の概要と特徴

###### <施設の概要>

場所 府中市朝日町3丁目13番地

敷地面積 約13000平方メートル

建築面積 約7392平方メートル

延床面積 約14305平方メートル

構造・階数 鉄骨造、地上3階

###### <主な特徴>（市のホームページから）

市内の全小・中学校に給食を提供する

アレルギー対応調理室を設け、アレルギー対応の充実を図る

施設見学や試食会、調理実習等が可能な食育のできる施設とする

□ 各階構成（詳細は別紙）

- ▷ 1階 小・中学校調理室
- ▷ 2階 見学通路、調理実習室、会議研修室兼試食室
- ▷ 3階 洗浄室、炊飯室、アレルギー専用調理室



(小学校の調理風景)



(運搬のため待機する給食運搬の車両)

□ 工費

- ▷ 工事費 94 億 7800 万円
- ▷ 総工費 114 億 7600 万円

□ アレルギー対応

- ▷ 除去食の提供 2017 年度 卵・ナッツ除去 果物代替  
2018 年度 エビ・カニ・乳製品除去を加える
- ▷ 提供数 2017 年度 小学生 109 名 中学生 19 名

□ 地産地消

- ▷ 府中市産の食材 2016 年度 全体の 3.1%

□ 災害時の炊き出し対応など

- ▷ 食材の備蓄がなく、現段階では対応できない。

◆ 見学して感じたこと

- 課題の 1 つは、全面委託に移行したことによる「味」である。「まずい」と訴える児童

がいと聞く。残菜量は始まったばかりなので計量はまだだということであるが、委託業者の慣れによって解決するのかが課題である。

- 食育については概要では触れなかったが、栄養士と栄養教諭による学期ごとの巡回や学校担当制（栄養士と調理師）、試食会（市民、PTA）、社会科見学（体験コーナーなど）、調理実習室を利用した親子教室などが行われている。個人的には今後の課題は、親（父母）に対する食育ではないかと考えるがどうだろうか。
- 府中地産の食材の利用で最も多いのは小松菜だということだが、全体では前述のように3.1%にとどまっている。都市農業の振興は府中市でも課題になっており、学校給食とどう連携できるかも重要なテーマであると考えられる。

## 2. 福生市防災食育センター

### ◆ 施設の概要等



### □ 建設の経緯

- ・ 東日本大震災とその後起きた福島第一原発における原子力災害は、未曾有の災害への備えのあり方について多くの課題を浮き彫りにした。
- ・ 福生市ではこの課題に対応するため、2013年度に「福生市地域防災計画」を修正し、避難所機能・備蓄機能・応急給食機能をあわせ持つ「災害時対応施設（防災給食センター）」を整備することとした。
- ・ 2014年6月には基本計画を策定し、整備にあたっての基本方針を定めた。

□ 施設概要

- ・建設地：福生市大字熊川 1606 番地 1
- ・敷地面積：9, 807. 58 m<sup>2</sup>
- ・建築面積：3, 847. 82 m<sup>2</sup>
- ・述べ面積：4, 844. 84 m<sup>2</sup>
- ・事業費：約 30 億円（中学校給食の開始にあたり、エレベーターなどを整備したため、総工費は約 40 億円）  
※防衛省の補助金を活用（3/4）
- ・調理能力：4, 000 食（最大 4, 500 食）

<主な特徴>

- ▷ 平常時は応急給食機能を活用して学校給食を行う。
- ▷ 食育機能を活かす。
- ▷ 中学校においても完全給食を開始する。
- ▷ 「食物アレルギー対応食」を実施する。
- ▷ 災害時には前記のように避難所機能・備蓄機能・応急給食機能を稼働する。

□ 各階構成（詳細は別紙）

○ 1 階



- ・通常給食棟 最大 4, 500 食（炊飯設備あり）
- ・食物アレルギー給食棟 最大 100 食（対応アレルギー：7 代品目）  
（通常給食棟とはすべて完全分離）



○ 2階



- ・食育展示・見学ホール、体験コーナー
- ・福利厚生（調理スタッフの働きやすい環境を考慮）





□ 主な防災設備

- ▷ 応急給食機能－災害発生後4日目以降最低3日間、市内の避難生活者約1万5千人に対し、1人1日1回、おにぎり2個と温かい汁物を提供
- ▷ 避難所機能－避難所として約310人を受け入れ。防災広場に救護用テントや簡易トイレを設置。
- ▷ 拠点機能－支援物資や応援部隊を受け入れ。
- ▷ 備蓄機能－避難所開設用の毛布等防災用備品を備蓄。応急給食用の米4,500kgと汁物用の乾燥具材45,000食分を備蓄



◆ 見学して感じたこと

- 福生市は横田基地があるため、土地は防衛省からの無償貸与、建設費も総額 40 億円の 75%について防衛省補助金を獲得してカバーし、東京都からも 5 億円の交付金があり、福生市の持ち出しは 5 億円という、他の自治体ではまねのできないものである。財政的な課題はランニング・コストであると思われる（現段階は試算中とのこと）。
- 防衛省補助金はあったとはいえ、「防災」「食育」をキーワードにした建設は、他の自治体も参考にすべきである。同時にオープンした府中市は、防災機能はまったく持っていない。
- 広い食育展示・見学ホール、体験コーナーを活用した食育は、来年 4 月からということであったが、どのような食育を展開していくのか注目したい。
- アレルギー食は、実際には 30 食の提供にとどまっているという。この課題も今後の推移を見守りたい。
- 調理スタッフは、正規職員（給食調理員）9 人、パート述べ 50 人ということであった。その労働環境や、提供する給食の「味」なども現段階では分からない。これらも今後の課題である。